

			<p>こどもがおおよそ3歳：母親父親に親の姿勢研究質問票(Schaefer & Bell, 1958)の記入を依頼。さらに家庭環境や特別な状況(例えば別離、離婚、再婚、死)の記録をした。</p> <p>思春期および初期の成年期：こどもと親の両方と別々にインタビュー。大学進学計画、キャリア目標、性的・社会的機能などの内容を含んでいた。思春期の評価中に、回答者の3分の1は自己イメージ質問票を記入。</p>			
1	<p>身体的発達などを調べる。</p>	<p>基礎的な属性(人種、婚姻区分、収入、家族、住んでいた場所、など)のデータと、教育、ヘルスケアおよび詳細な職業についての情報。参加者のうち150人は、広範囲な半構造的3-4時間のインタビューを受け、家族史、近隣地区、職業、希望、人種などのトピックをカバー。参加者の近隣地区の印象や、参加者の外観、周囲の環境などについて記録。レストラン経営者およびマネージャーもインタビュー</p>	<p>ニューヨークの中央・西ハーレムの300名の男女が参加。そのうち200人はハーレムの4軒のファーストフードレストランのうちの1つで就労。100人はそれらのレストランのうちの1つへ応募した人が雇用されなかった人たち。参加者は、アフリカ系アメリカ人、ドミニカ人、プエルトリコ人のさまざまな年代の人々。殆どは15-40歳。教育程度もさまざま。ほとんどの参加者は高卒。</p>	<p>第1波 1993-1994: 300人 第2波 1997-1998: 100人 第3波 2001-2002: 40人</p>		
0	<p>No Shame in My Game: The Working Poor in the Inner City (ds35) 1993-2002 「市の中心街の貧困労働者」 ニューヨーク西ハーレム/ 15-40歳/3回</p>	<p>属性(年齢、雇用状況と職業、婚姻区分など)のほか、退職、レジャー活動、生活の充足などの問題。 フロロニア質問票は、1977年、1979年、1981年、1991年および1995年に郵送された。フロロニア質問票は、回答者の人生の変化およびそれらの結果を評価するように設計。1977年と1979年の質問票は1975年のものを再現。 第3波の後は、退職との長期的な適応にかかわる要因、配偶者をなくした生活への</p>	<p>1975年開始。 オハイオのオクスフォード郡在住の50歳以上のすべての成人</p>	<p>1500人以上に質問票を郵送、有効回答1106人</p>		
3	<p>都心部における貧困労働者の生活調査。</p>	<p>調査チームメンバーは、4か月の間ファーストフードレストランでこれらの参加者といっしょに働き、親およびこどもと知り合い、教師や神父のような重要人物にもインタビュー。</p>				
1	<p>Ohio Longitudinal Study (ds139) 1975-1995年</p>	<p>オハイオ加齢と引退に関する長期的研究は、1975年に始められた。 引退の過程と、それが個人の身体的加齢と社会的適応に及ぼす影響についての調査研究。</p>				
0	<p>「オハイオ長期研究」 50歳以上/20年間・6回</p>	<p>マイアミ大学のスクリップス基礎老年学センター</p>				
4						

		<p>家族の収入とその変化の規定要因を探る。家族の経済状況の短期的な変化が、家族外の要因に寄与しているのか、個人の背景や考え、行動に寄与するのかを調べる。</p> <p>University of Michigan, Institute of Social Research</p>	<p>適応、世代間の接触、生涯による身体的制限への適応などを含む。</p> <p>・収入の増減の要因。経済状況、経済活動、属性、意識。就業状況、収入源、収入額、住宅、自家用車の保有の有無、食費の支出額、交通費、自分でやる家や車の修理、教育、障害、時間の使い、家族背景、家族構成の変化、居住地。</p> <p>・社会学的心理学的な項目を含む波もある。</p> <p>・コアの項目：収入源、貧困地位、食料、住宅等の公的支援の有無、家族構成、人口学的事項（婚姻関連・出産、養子・子どもが世帯を築くなど）、労働市場への参加（就業状況・有給休暇・病気休暇・職業・職種・職業経験）、住宅（持ち家か否か・価格・家賃・広さ）、移動（いつ、なぜ引越したか、世帯主の育った場所、世帯主が住んだことのある州）、社会経済的背景（教育、エスにシテ、信仰、軍歴、親の教育と職業、貧困地位）。1985年からは、世帯内の全員について結婚や妊娠出産歴をたずねている。</p>	<p>・1968年の時点での代表的なサンプル。1人以上の一般世帯に住む人。48州とDC。</p> <p>・低収入の高齢者でない世帯を、センサス局の1966-67年の survey of economic opportunity 用にサンプルされた世帯。分析に耐えることのできる数のアフリカ系の低収入世帯を確保するために抽出された。</p>	<p>無作為抽出の3000家族とサブサンプル1900低収入家族。世帯主が毎年回答。これらの4800世帯を追跡した。引越しても、別世帯に移動しても継続する。これらの追加により、パネル調査のドロップアウトがキャンセルされ、現在は7000人。</p>
1	<p>Panel Study of Income Dynamics, 1968-1999 Annual Core Data [ICPSR 7439] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07439.xml</p>				
0	<p>http://psidonline.isr.umich.edu/</p>				
5	<p>全米/世帯（全年齢）</p>				
子育	<p>Patterns of Child Rearing (ds235) 1951-58年</p>	<p>育児の実際と価値観：親はどのように子どもを育てるか、異なった育児法の子どもへの影響、親が他の育児法と比べて、ある育児法を選択する理由。</p>	<p>1951年、各女性、訓練されたインタビュアーから家で標準化されたインタビューを受けた。背景および人口分析の特性に関する質問その他、食事、トイレットトレーニング、教えるとき(例えばテーブルマナー)の報酬および罰、性別および謙遜トレーニング； 整理整頓、雑用の割り当て、学校での成績の期待；子どもの攻撃性および親の反応、親の育児の分かれ合い、子どもトレーニングに関する意思決定、余暇時間活動および財政問題の共有；回答者の子どものタイミンングへの反応；職場および外部への母親になる</p>	<p>1951-1952年に、379人の郊外に住む母親（少なくとも1人の子どもが幼稚園に通っている）にインタビュー。1958年：（およそ12歳）再度コンタクト。379人のオリジナルサンプルの子どもたちの中から160人が、他の追加された377人の6年生とともに、フォローアップに参加。</p> <p>混同する可能性のある変数の数を減らすためと、興味</p>	<p>379人 160人+377人</p> <p>フォローアップ研究は以下のとおり。 1963-64 (Nowilis, A570); 1965 (Crown, et al., A572); 1968 (Edwards, A575); 1977-78 (McClelland, A46); and 1987-88 (McClelland & Franz, A1012).</p>
1	<p>「育児のパターン」</p>				
0	<p>幼稚園児を持つ母親/7年間・2回</p>				
6					

	<p>影響、彼女の現在の育児と自分がこどもであつたときに受けた育児の経験の違いで感じるもの。</p> <p>第2波は、男らしさ女らしさ、自己像、いたわり、成人対こどもの役割選択、攻撃的態度、罪悪感についての物語感性、罪悪感に対する抵抗の測定など。</p> <p>成人のための評価される変数は心理的、結婚、社会文化的、生理的、親としてのものを含んでいた。さらにこどもの測定は出生時に開始された。</p> <p>合計40-60の測定が6年を通じてのすべての参加者に行なわれた。</p>	<p>関心の側面の統制された多様性（社会的階層と宗教的背景など）を確保するために、いくつかの条件によって研究参加者を選ぶ。</p>	<p>およそ100人の女性およびその夫90人が任意参加。5年後のフォローアップで、44組の長期サンプルに15組の補足サンプルが加えられた。32組の中国系アメリカ人家族も比較のために追加。妊娠4か月目までに始められ、こどもたちが5歳で終了。6年間に7回調査。</p> <p>妻、夫、こどもは、自記式質問票および半構造化インタビューを含む質問票を記入。臨床の評価、非構造化観察、半構造化観察、相互作用のビデオなど。</p>	<p>100人の女性およびその夫90人</p>
<p>1 0 7</p>	<p>Pregnancy and Parenthood Project (ds165)</p> <p>妊娠と子育てプロジェクト</p> <p>妊娠5ヶ月／6年間・7回</p>	<p>出産のプロセスの理解。出産と子育てに関する将来起こる問題を予知できる、妊娠初期の要因を特定。第1子の子育てを持った親と、すでにこどもがいる親の経験を比較。</p>	<p>こどもがミドル・スクールに入るとともに、データ収集は1991年秋に開始。3波が、思春期のこども、親（主要な保護者と第2番目の保護者の両方）、年上のきょうだい、学校職員、学業成績、1990年の国勢調査のデータバンクから、家庭でのインタビューまたは電話でのインタビューと自記式質問票で集められた。追加の2波が、高校最終学年と卒業後に提案されている。</p>	<p>1482組の家族</p>
<p>1 0 8</p>	<p>Prince George's County Study of Adolescent Development in Multiple Contexts (ds1066)</p> <p>プリンスジョージ郡多コンテクストにおける思春期の人の発達研究</p>	<p>思春期の行動の選択と発達軌跡の心理学的決定要因への、社会的コンテクストの影響を記述し、理解すること。データは、経済的にまた民族的に多様な思春期青少年とその家族について、複数の情報源から収集された。</p>	<p>思春期のこどもの1,482組の家族のサンプルは、多くのアフリカ系アメリカ人の家族(61%)および、アフリカ系アメリカ人とヨーロッパ系アメリカ人の家族でも広範囲の社会経済的階層を含むという点で独特。サンプルは、田舎、低収入、危険の高い都市の地域などから抽出された。</p> <p>マレー・センターは、最初の3波の機械アクセス可能なデ</p>	<p>1482組の家族</p>

	<p>1995年 シカゴ近隣地域における人間 開発プロジェクト調査：系統的 な社会観察</p>	<p>若い人々の発達、ことに若者の暴力と関係する変数に及ぼしている影響を測定。地域の、身体的、社会的、経済的特徴を、1プロジェクトごとに直接観察する。</p>	<p>から成る。研究参加者は、年齢で7つの集団に任意に選ばれた、子ども、思春期青年およびヤングアダルト。生活の変化状況と、個人をさまざまな反社会的な振る舞いに導いたり遠ざけたりする個人の特性についてみている。</p> <p>衝動コントロールおよびセンセーションを求める特性、認識と言語の発達、レジヤクティビティ、非行と薬物乱用、友人の活動、自己認識、態度と価値観、などについて。養育者もインタビュアーを受けた。質問は家族構成、親の個性、親子関係、しつけスタイル、家族の精神衛生、家族の犯罪行動と薬物利用の歴史、などに焦点が当てられた。インタビュアーはスペイン語、英語およびポルトガル語で行なわれた。1波は乳児評価ユニットを含んだ。新生児集団の412人の成長および健康、認識の能力および動作が評価された。</p> <p>PHDCNは1995年に「近隣」についての系統的な観察を行なうため、人による観察と、ビデオ録画を組み合わせたアプローチを始めた。National Opinion Research Center(NORC)が、SSOのデータを集めた。1995年6-9月に、NORCの訓練された観察者が、80のサンプリングされた「近隣」のすべてのブロックを巡った。観察者が観察記録に各ブロックの「顔」の特性を記録する1方、ビデオ録画者は各ブロックの両側を録画した。ビデオテープと観察記録のコード化。</p> <p>評価の対象：土地の利用;居住の住宅;商用産業建物;飲酒できる場所;レクリエーションの設備;道路の状態;目に見えるところにいる警備員;目に見えるところにいる子ども;目に見えるところにいるティーンエイジャー;交通;建物の状態;たばこ;通りま</p>	<p>の343個の都市区画として定義された。</p>	
--	---	---	--	----------------------------	--

			<p>たは構に落ちている葉巻き;通りや歩道の 上のごみくず;通りで目にみえるところに ある空のビール瓶;道路標識への落書き;落 書き;ギヤングによる落書き;廃棄された自 動車;歩道上のコンドーム;歩道上の針/注 射器;政治的なメッセージの落書き。 さらに、次のものも評価の対象: 大人がぶらつく/たむろしている;アルコ ールを飲む人々;ピアグループ;ギヤングが いることを示すもの;酔酩している人々;次 人がけんかしていたり対立して議論して いること;通りの売春者;薬を売る人々。</p>			
1	Prospective Study of 500 Second Graders (ds772) 1965-	多動的行動の、持続性、頻度、 予測力を検討するとともに、 多動児童の、学術的成績、雇 用、社会対人的発達などの長 期的結果を、非多動児童と比 較する。	Huessy-Marshall 評価スケール(2, 4, 5年) および学業成績(9, 12年)、集中度、学習 とその関連の問題、成績平均得点;英語、 数学、科学および社会科の達成;知能レベ ル;社会的順応(9,12年生)。 教育の背景、職業、婚姻区分、自己認識、 病歴、家族背景、兵役、警察および他の権 威との相互作用、薬物使用および人生に対 する満足感(21歳時フォローアップ)。	1965年に小学校2年生だっ たパーモント州の小さな田舎 町の500人の子ども男女同 数。 研究参加者は、多動的振る 舞いをする(多動児と診断は されなかった)子どもと、多動 的振る舞いを示さないこど もの2つに分類された。	500人(男女同数)のこ ども	
1	「12年生500人プロスペクティ ブ研究」					
1	パーモント州の小さな町/ 2,4,5,9,12年生,21歳・6回					
出生 行動	Psychological Aspects of Fertility Behavior in Women (ds27) 1972-1975年	女性における生殖と出生に 関連のある態度と個人的特徴 について。	属性、結婚、生殖および避妊と関係する問 題をたずねた。 8つの質問票。母親としての態度、伝統 的な女性の役割への関心、性と避妊への態 度、性と避妊の知識、個人のスタイル(有 効な避妊の使用に適切な心理学の特性)、 ジャクソンパーソナリティ研究フォーム などがカバー。参加者の夫かボーイフレンド は、女性の質問票と同じ態度を評価する 質問。 フォローアップは1, 2, 3年後。結婚 と生殖に関する態度と行動について(例え ば月経の経歴、性に関わる経歴、結婚しこ どもを作る意志決定プロセスなど)。第3 波:同様のトピックについての質問に加え て育児の実際について尋ねた。子どもを持	1972年、スタンフォード大 学コミュニティの未婚、既 婚で子どもなし、既婚でこ ども1人の合計967人の女性。 1975年:第3波	967人の女性	
1	「女性の出生行動の心理的側 面」					
1	スタンフォード大学/未婚既 婚女性/3年・3回					
2						

				つかという状況、意思決定に関する事項との関係の状況、意思決定に関する事項。			
生活	Quality of Canadian Life: Social Change in Canada, 1977 [ICPSR 7879] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07879.xml	QOLプロジェクトは、1976年に始まった5年間の研究プログラム。公式には、「カナダの社会変動：意識・価値観・認識における潮流」というタイトル。	各回答者の日常生活の中のさまざまな領域に関する、態度と満足度についての記述を測定するように設計された、1977年のデータを含むものである。	カナダで暮らしている18歳以上の人、Yukon および Northwest Territories は除外。施設およびインディアン特別保留地の居住者も除外。3つの全国調査が1977,1979,1981年におこなわれ、毎回3,000人を越える回答者があった。約2,000人は3回すべてに回答。			ファイルには 3288 ケース
1	「カナダ人の QOL : カナダの社会変動 1997 年」		次のような事柄を含む：居住している近隣市町村、生活全般、カナダと州の政府、仕事と家事、個人の金銭状態、住宅、人生の目標と価値観、個人の疎外感と達成感、レジャー活動と余暇時間、教育、健康と身体的状態、友人関係、結婚と恋愛関係、ことも、現在のカナダの政治と社会問題、ニュースメディア。	1977年と1981年データは比較のため、カナダの一般市民だけでなく選択されたカナダの政策決定者たち(トップのビジネス・エグゼクティブ、政治家、公務員および労働組合リーダー)に関するサンプルからも集められた。			
3	カナダほぼ全土 / 18 歳以上 / 5 年間 (3 回)		個人の背景に関する情報とインタビュを担当者の観察データも含まれている。				
労働	Quality of Employment Survey, 1973-1977: Panel [ICPSR 7696] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07696.xml	仕事の状況の把握と生活との関連を調べる。	労働基準の問題の頻繁さや深刻さ、就業関連のデータ (仕事の満足度の予測として知られている指標、満足度そのもの、仕事の重要な側面のレーティング。	1973-1977年、1455人の収入のために週20時間以上はたらく労働者			1455人
1	「雇用の質に関する調査：1973-77年」	(1969-70年の調査、1972-73年の調査とほぼ同じ内容。) SURVEY OF WORKING CONDITIONS, 1969-1970 (ICPSR 3507), and QUALITY OF EMPLOYMENT SURVEY, 1972-1973 (ICPSR 3510).	仕事の状況や仕事に影響されると思われる他の領域での仕事の影響について質問。職場での精神的緊張、安定感、身体的健康状態、仕事の満足感、経済的状況。仕事上の期待。	縦断調査の部分は、1973年調査で回答し1977年の調査に回答した人。1977年での回収できなかつた分は、1977年の情報を無回答扱い。			
1	全米 / 労働者・4年間	(United States Department of Labor. Employment Standards Administration)	仕事全般、生活全般の満足度。職場文化、職場の環境、差別、給与外特典、労働組合、保育状況、子どもや配偶者との時間の実態、余暇の使い方、投票。				
4			人口学的属性、年齢、性別、婚姻状況、人種、生まれた地、教育、収入。				

1	女性	Radcliffe Class of 1969 (ds1027) 1979-1990年	卒業生のキャリアパターンを、10年ごとに調査(1979年、1990年)して、仕事へのコミットメント、その多様な要素、関係する要因、仕事へのコミットメントの経年変化を探る。	149人の女性が1990年の質問票に回答。そのうちの99人は1979年の質問票にも回答。 家族背景、現在の家族状況、教育および職業、キャリアアブラン、キャリアアパター、就労経験、信念・態度、労働力参加パターンなど。	99人 1979年 149人の女性 1990年
1	キャリア	「ラドクリフ大学 1969年卒業生の調査」			
5		ラドクリフ大学の1969年卒業生 / 10年後 / 20年後			
1	離婚	Remarriage After Divorce: A Longitudinal Analysis of Well Being (ds726) 1977-	1977年のSpanierによる「離別、離婚への適応」研究の追跡調査。 変わりに行く再婚のパターンについて調べることと、初婚と再婚の形式と機能が異なっている可能性について検討。	現在の関係の背景、世帯に暮らしていること、子育ておよび育児の責任配分、同居していないこと、訪問、義理のこどもに対する態度、もつこどもをもつかどうか、元と現在の配偶者との関係、社会ネットワーク、再婚に関する態度と計画、身体的精神的健康、経済。	初回 251人 フォローアップ 181人 (再婚の配偶者 60人)
1	再婚	「離婚後の再婚：健康の長期的分析」			
6		家族 / 2回?	(テンプル大学の調査研究 (ISR)研究所)		
1	退職	Retirement History Longitudinal Survey, 1977 [ICPSR 7931] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07931.xml	アメリカにおいて退職の実態と退職後の生活への移行について調べる調査の6回シリーズの5回目。 退職の過程と時に伴う変化を捉える。就労生活の特徴と退職のタイムライン、質その実施の決定要因の関連性の詳細を分析。	アメリカの1905-1911年生の男性。1905-1911年生まれの夫のいない女性。 多段階率抽出法。 第1波：センサスで使われているサンプリングフレーム。 1969年2月以前に Current Population Survey に参加した人の世帯。 その後の波：同じ人を再調査。死亡していた場合は、配偶者に(前回の調査時にも結婚し同居していた人) 1979年回答者が68-73歳になるまで継続	7993人 (7079人が 1969年調査開始時から の回答者、914人が途中で 死亡した回答者の配 偶者)
1	生活	「退職についての縦断調査 1977年」			
7		全米 / 58-64歳 / 68-73歳まで 2年置き	1969年調査をベースとし、2年ごとに調査する。 (Social Administration Security)		

				調査からさかのぼって一年間の健康に関する事項、検診を受けたか、その費用、歯科診療、入院、処方箋、それ以外の薬の使用、その他の医薬品やサービス、健康保険、その他医療費支払いの資源、回答者自身の健康状態の指標。退職の生活スタイルの変化を捉えるために、余暇の過ごし方、親類との距離や会う頻度、親類からの経済的援助、食生活や住宅について、資産の所有、交通手段に関して。 人種、性別、年齢、婚姻状況、教育、収入、補助受給額、資産、負債、子ども数、在学中の子ども数、世帯構成と関係。			
1	女性 の キ ャ リ ア	女子大学生のキャリアプランと発達を追跡調査。学生の、初期の大学の印象、大学卒業後についての期待の発展、キャリアプランを促進したり阻害したりする影響、についての焦点をあてる。	第1波：188人の1年生(58%が4年間大学に在籍)。87人の学生がパネル研究のすべてに参加。 専攻、大学生生活、生活上の困難と満足、大学院への希望、仕事への意欲と志向、子育て中のキャリア継続、自分の親たち、育児、結婚、家事労働などについての選択のパターンおよび態度。 1975年のフォローアップ：大学卒業後の教育および仕事歴、家族特性、ライフスタイルの特徴、希望が満たされた範囲および将来への希望をたずねる。	第1波：188人の1年生(58%が4年間大学に在籍)。87人の学生がパネル研究のすべてに参加。 1975年には、アドレスティを獲得した64人の参加者にフォローアップ。		家族データ：1239 家族 個人データ：3926 人	
1	Rural Development in Deccan Maharashtra, India: Village Panel Study, 1942-1977 [ICPSR 9308] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/09308.xml	インド Maharashtra 州 Sugao 村に住む家族の 25 年間の経済、職業の変化。 1942 年と 1958 年の住民の日常生活について調査。 1977 年：村から 150 マイルにある、工業都市ボンベイの経済的魅惑が村人の生活に及ぼす影響について調査。	データは個人と家族の両方のレベルで集められた。回答者はカースト、ジェンダー、年齢、結婚、教育、住まい、主な・副次的な・3 番目の職業、職場の場所、雇われた年、収入、労働週間、職階級などについて質問された。家族は、規模、構成、村外にいたる家族、他の人との経済的關係、住まいの獲得・サイズ・建築、家の改修について報告。				
1	生活 ・ 経 済 イ ン ド	Gokhale Institute of Politics and Economics, Gokhale					
9	「インド deccan Maharashtra における農村開発：村落パネル研究 1942-1977 年」						

	インド Maharashtra 州 Sugao 村 / 25 年間	Institute of Politics and Economics	<p>されている家族の労力、灌漑されている土地とされていない土地の広さ、土地の生産力、家畜のタイプ・数・飼っている場所なども調べられた。</p> <p>新しく競争率の高い経済環境下で、個人の社会的関係によってどのように好機が増したり妨げられたりするのかに注目。地方の農民を含む小企業所有者に、起業の資金源、パートナーの特徴、保有する土地、融資、家畜の所有、機械類、輸送および消費財、また近代的手法の活用状況（現代的農業法、作物のタイプ、生産する作物、予期される生産レベルなど）について質問。</p> <p>社会サービス（含医療サービス）、村の生活の質（含、他者との関係）、地域の祭りへの参加、仕事の満足、収入、健康、家族、結婚、村での生活、国全体としての状況、情緒的・心理的健康の自己評価 最近の重要な、またはトラウマ的な出来事。「うつ」に関する兆候などについても質問。</p> <p>宗教の所属と実践、ニュースおよび情報源、過去に政治的抑圧をうけた家族、消費財をどこから購入しているかなど</p> <p>既存の社会関係に関して詳細に質問。だれから借金をするか、だれと物品やサービスの交換をするか、だれに家庭の世話や安全の保証を任せるか、収穫や家庭の仕事を支援してくれるように頼むのはだれにか。属性の変数は、年齢、性別、結婚区分、国籍、教育、職業、家族構成、家計収入、地域コミュニティ内での家族の歴史など。</p>	<p>アメリカ合衆国の15歳以上の住民。施設や軍隊宿舎に住んでいる人を除く。多段階化抽出。約26000の住宅が選ばれ、うち約21000に住民がおり面接対象に該当。各家庭が</p>	<p>463人</p> <p>脱落：世帯レベルの無回答、世帯内の家族の無回答、項目への無回答の3種がある。家庭レベルでは、1991年のパネルでは、脱落割合</p>
1	Russian Village Household Panel Surveys, 1995-1997 [ICPSR 2816] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY02816.xml	この3波パネル研究の目的は、ロシアのいくつかの農村コミュニティ内での既存の社会ネットワーク間の関係、それらのコミュニティ内で、ソ連時代の経済の崩壊がもたらした大きな経済的社会的変化(個人の物質的資源、主観的な生活の質、精神的健康などで測定できると対処する個人の能力を検討する。	<p>所得源と所得額、労働力に関する情報、プログラムへの加入と資格のデータ、一般的な属性のデータ収集により、連邦、州、地域の既存プログラムの効果を測定する。</p>	<p>ヨーロッパロシアの農村から抽出された。黒土地帯以外からの1つの村。</p> <p>世帯は、研究対象の村の世帯の全人口から抽出された。研究対象の村の異なる属性のタイプの世帯の割合に基づいた層化パネル・サンプル。サンプルは地方自治体の世帯リストから取り出された。各世帯から1人がインタビューを受けた。</p>	
2	「ロシア農村世帯パネル調査 1995-1997年」				
0	ロシア農村 / 世帯 / 3年間				
1	SIPP/SPD Survey of Income and Program Participation (SIPP)	所得源と所得額、労働力に関する情報、プログラムへの加入と資格のデータ、一般的な属性のデータ収集により、連邦、州、地域の既存プログラムの効果を測定する。			
2	「所得とプログラム加入調査」				

1	<p>所得補助 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1996, 2001 パネル http://www.sipp.census.gov/sipp/overview.html 全米/15歳以上/各パネル2年半から4年。</p>	<p>フードスタンプなどの政府プログラムの将来のコストと対象を概算する。 国の中での収入の分配についてにより詳細な統計の提供。 (United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>時間数と週数。収入、失業、失業していた週数。働いていない人は、失業中か、労働不能かに分れる。労働収入のほかに50近くの種類の収入についての項目 労働力、プログラム参加、およびアメリカ人の経済状態を測定することを目指した収入に関する質問を核として構築された。これらの質問は、現金および非現金収入を増やすため、インタビューストに繰り返された</p> <p>各調査ではトピックを加えることにより、分析により広い情報を供給。モジュールによってカバーされたトピックは、個人史、育児、財産、プログラム適格性、子供の養育、障害、就学記録、税および年収を含む。</p>	<p>四つのローテーショングループに分けられ、それぞれのグループが面接を受けた。すなわち、毎月四分の一の家が面接を受け、四ヶ月周期で再面接。 サンプルサイズ 14,000 ~ 36,700、インタビュアーを受けた世帯の一連の全国パネル。各パネルの期間は2年半から4年まで。米国民間人、施設居住者以外人口の多重層化サンプル。 1984-1993年はパネル世帯が毎年2月に導入。 4年間のパネルは1996年4月に導入。 2000年パネルは2000年2月に導入。2001年の3年間パネルは2001年2月に導入。 各波4ヶ月期間で、毎月同程度のインタビュアーが4ヶ月に分けておこなわれ、各人は、4ヶ月ごとにインタビュアー。</p> <p>1996年パネルでは、SIPP調査票が再度設計され、1990年の国勢調査データを使用する設計が導入。2001年パネルもこのサンプル設計を使用。36,700のサンプル・ユニット(世帯)から成る。各世帯は、2001年2月から2004年1月までに9回インタビュアーを受ける。 国勢調査2000年のデータに基づいてデザインが2004年の</p>	<p>が第1波では8%だったのが第8波では21%以上に上昇した。同じパネルについて、第1波に参加したサンプルの23パーセントが、1つ以上の波で無回答。 項目レベルの無回答率は大体10%以下だが、収入や財産に関する質問では少し高め。 国勢調査局は、SIPPの3つのレベルすべてにおいて、無回答のパイプラインの影響を弱めるために、ウェイトとimputation法の組み合わせ。 これらの手続きの有効性については、調査および研究が継続。詳細は、(SIPP Quality Profile, 3rd Ed., Chapters 4, 5, and 8)を参照。</p>
---	--	--	---	---	--

<p>収入 ・ 家計 ・ 労働 ・ 各種補助</p>	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD) First Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, and 1997 [ICPSR 3315] ・ http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03315.xml ・ 「プログラムダイナミクス 第一次追跡調査ファイル 1992, 1993, 1994, 1996, 1997 年」 全米/世帯 15 歳以上 / 5 年間</p>	<p>このファイルは、1992、 1993、1994、1996、1997 年 の社会経済的データを含む修 正されたファイル。個人、家族 および世帯に対する福祉改革 の影響の縦断分析のために設 計されている。このファイルか ら、さらに SPD 1998(ICPSR 2917)、SPD 1997 年 Bridgbe(ICPSR 2797)、および 1992 年(ICPSR 6429)と 1993 年(ICPSR 6886)の SIPP パネ ル・ファイルにリンクできる。 ファイルは、世帯の各メンバ ーの 4 あるいは 5 年間の、基礎 的な属性、経済的・社会的特性 データを含む。 SPD シリーズは、1996 年の Personal responsibility and Work Opportunity Reconciliation Act に応え、ア メリカ商務省、国勢調査局によ って開発。SIPP の 1992,1993 年パネルに参加した世帯から、 法律の効果を評価するのに必 要なデータを収集するため。 SPD プログラムの目的は、 政策決定者に、最近の福祉改革 の効果、改革がどのように互い に、影響し合っているか、また 雇用、収入と家族の状況にどう 影響しているか、および福祉改 革の受益者やその家族、こども の well-being への長期影響な どを評価する調査を提供する</p>	<p>属性(年齢、性別、民族的背景、婚姻区分、 世帯関係、教育、軍歴)、経済データ(仕 事の経験、雇用状況、職業、産業、働いた 週と一週間に働いた時間、総収入と内訳、 15 歳以上の人の収入の部分)、収入データ (仕事からの収入、ビジネス・農場・賃借 料からの純益、年金、配当、金利および社 会保障支払い)、また非現金収入(フードス タンプ、学校ランチ・プログラム、雇業者 に提供される団体健康保険、雇業者に提供 される年金、Medicaid、Medicare、 CHAMPUS か、軍の医療保険、および光熱 費援助)などのデータ。 ファイルは、41 州とコロンビア特別区 を含む。しかしながら、サンプルは州デー タを出すために設計されていない。残りの 9 州の SPD サンプルは機密性を保つため に 3 グループとして識別される。 3 つのグループは以下のとおり:メイ ンおよびバーモント。アイオワ、ノースダコ タ、サウスダコタ。アラスカ、アイダホ、 モンタナ、ワイオミング。 SPD のトピックは SIPP からの拡張であ るが、“March Supplement to the current Population Survey”, “Panel study of Income dynamics”, National Longitudinal surveys”などの年次恒例の調査からのガイ ダンスを使用して、年次恒例の調査質問票 の中に取り入れられている。さらに、充分 活用されるために、SPD 中のファイルは SIPP のファイルとリンクすることができ るようになっている。同じ世帯に対して、 SIPP および SPD の両方で行なわれたイン タビューは、同じ人口についての情報を増</p>	<p>パネルから導入される。 SPD1997 年: BRIDGE SURVEY(ICPSR 2797)は、 1992, 1993 年に回収した「収 入とプログラムの参加調査 (SIPP)」の全国の居住地域を 代表するよう選ばれたパ ネルのおよそ 29,619 の世帯 をインタビュー。SPD の 1998 年の PUBLIC USE FILE(ICPSR 2917)では、 1997 年の世帯インタビュー の中からのサブサンプルの 19,129 世帯が継続的なサン プルとして選ばれた。低収入 の世帯およびこどものいる 世帯は、確実に、あるいはほ ぼ確実に、選抜された。中・ 高収入でかつ子供のいない 世帯が、サンプルに選ばれる 確率は 4 分の 1 であった。</p>	

		<p>こと。プログラム期間は、改革前から改革後の、1992-2002年(1992年のSIPPパネルのデータとの結合による)。</p> <p>過去の経済歴、雇用、収入およびプログラム参加に関する情報を得るために、2つの過去のSIPPパネル(1992年と1993年)が、SPD サンプルに選ばれた。SPDの測定具には、1998-2002 期間のものと基本的に同じ中核と、毎年変わる話題のモジュールがある。中核になる情報は、基礎的な属性、労働力活動、現金・非現金収入およびプログラム参加。SPDには、さらに成人の質問、および子供に関する質問から成る2つの部分がある。</p> <p>(United States Department of Commerce. Bureau of the Census)</p>	<p>やすこととなる。例えば、1992年と1993年のSIPPパネルのデータが福祉改革の影響を評価する広範囲なバックグラウンドを提供している一方、1997年のSPD、実験的ブリッジ調査ファイルは、改革前中間・改革導入期・中間期・改革後期間にインタビューを受けた同じ人口のベースラインをカバーするデータを提示している。</p>		
1	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD), 1998: Public Use File [ICPSR 2917] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02917.xml</p>	<p>アメリカ合衆国の人々の経済状況と活動の概況を提供する。</p> <p>毎月の労働力データと、仕事の経験、収入、非現金の補助についての補足データを提供する。</p> <p>(United States Department of Commerce. Bureau of the Census)</p>	<p>SPDは毎月の労働力データを提供し、さらに、仕事の経験、収入および非現金補助の補足データを提供する。</p> <p>包括的な仕事経験情報は、15歳以上の人の雇用状況、職業、産業、働いた週、一週に働いた時間数、フルタイムで働いていない理由、収入合計、収入の内訳など。現在労働している人だけでなく労働力していない人の情報もある。</p> <p>質問は、回答者の仕事に対する現在の望み、過去の仕事経験および、求職の意図などをカバー。SPDは、さらに9つの非現金収入の出所をカバーするデータを含む: フードスタンプ、学校ランチ・プログラム、</p>	<p>SPD1998年のPUBLIC USE FILEでは、1997年の世帯調査のサブサンプル19,129世帯が継続的なサンプルとして選ばれた。低収入の世帯および子どものいる世帯は、確実に、あるいはほぼ確実に、選ばれた。中および高収入でかつ子供のいない世帯が、サンプルに選ばれる確率は4分の1であった。</p> <p>調査実施 1998年5, 6, 7月</p>	
2					
3	<p>「プログラムダイナミクス 1998 調査公共利用ファイル 1998年」</p>				

			<p>雇用者に提供される団体健康保険、雇用者に提供される年金、個人の健康保険、Medicaid、Medicare、CHAMPUS、か軍の医療保険、また光熱費援助。調査世帯の各人についての、基礎的な属性、社会および経済特性。年齢、性別、人種、民族、結婚。居住建物のユニットの数のような特性についてのデータも多少ある。</p>	<p>母集団は 1992 年 3 月および (または) 1993 年 3 月に、刑務所および老人ホーム、軍の世帯などの施設に住んでいる人々以外で、アメリカ合衆国に居住した人々。コスト制約のために除外されたか 1998 年のインタビュー前に脱落した人々以外の、収入とプログラム参加(SIPP)パネルの 1992 年と 1993 年の調査のオリジナルのサンプル。*</p>	
1	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD) Second Longitudinal File: Data Years 1992, 1993, 1994, 1996, 1997, 1998, and 1999 [ICPSR 3594] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/03594.xml</p>	<p>1992-1999 年の社会経済的なデータを含む加工ファイル (1995 年は除外)。福祉改革が個人・家族・世帯に及ぼした影響の長期的分析のために意図された。ファイルは下記にリンクできる: SPD First Longitudinal File (ICPSR 3315), SPD 1997 Bridge (ICPSR 2797), SPD 1998 (ICPSR 2917), the SIPP panel files 1992 (ICPSR 6429) と 1993 (ICPSR 6886). (United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>属性 (年齢、性別、民族的背景、結婚、家庭関係、教育、兵歴)、経済データ (仕事の経験、雇用状況、職業、産業、働いた週と一週間に働いた時間、収入合計、15 歳以上の人の収入の内訳)、収入データ (仕事からの収入、ビジネス・農場・賃借料からの純益、年金、配当、金利および社会保障支払い)、また非現金収入(フードスタンプ、学校ランチ・プログラム、雇用者に提供される団体健康保険、雇用者に提供される年金、Medicaid、Medicare、CHAMPUS、か、軍の医療保険、および光熱費援助)などのデータ。</p> <p>ファイルは、41 州とコロンビア特別区を含む。サンプルは州データを出すために設計されていない。残りの 9 州の SPD サンプルは機密性を保つために 3 グループとして識別される (メインおよびバーモント。アイオワ、ノースダコタ、サウスダコタ。アラスカ、アイダホ、モンタナ、ワイオミング)。</p>	<p>母集団は 1992 年 3 月および (または) 1993 年 3 月に、刑務所および老人ホーム、軍の世帯などの施設に住んでいる人々以外で、アメリカ合衆国に居住した人々。コスト制約のために除外されたか 1998 年のインタビュー前に脱落した人々以外の、収入とプログラム参加(SIPP)パネルの 1992 年と 1993 年の調査のオリジナルのサンプル。*</p>	<p>* SPD1997 年 : BRIDGE SURVEY(ICPSR 2797) は、1992、1993 年に回収した「収入とプログラム参加調査 (SIPP)」の全国の居住地域を代表するように選ばれたパネルのおよそ 29,619 世帯をインタビュー。SPD1998 年 PUBLIC USE FILE (ICPSR2917) では、1997 年の世帯インタビューの中からサブサンプルの 19,129 家庭が継続的なサンプルとして選ばれた。低収入の世帯および子どもに選ばれる確率は 4 分の 1。</p>
2	<p>「プログラムダイナミクス第二次追跡調査ファイル 1992、1993、1994、1996、1997、1998、1999 年」</p>				
4					
1	<p>SIPP/SPD Survey of Program Dynamics (SPD), 1997: Experimental File [Bridge Survey]</p>	<p>このデータセットは「収入とプログラム参加(SIPP)」調査の 1992、1993 年のパネルと「プログラムカ学 (SPD)」</p>	<p>アメリカ合衆国人口の経済状況と活動のデータ。SPD は毎月の労働力データを提供し、さらに、仕事の経験、収入および非現金による補助の補足データを供給。</p>	<p>施設や兵舎に住んでいる人以外のアメリカ合衆国の居住人口 SPD は、1992、1993 年の</p>	
2					

5	<p>[ICPSR 2797] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/02797.xml 「プログラマダイナミクス実験的調査ファイル (ブリッジ調査) 1997年」</p>	<p>1998-2002 年次調査間の橋渡しをするものである。 1992、1993 年の SIPP で集められたデータは、福祉改革の効果割り出す広範囲なバツクグラウンディングを提供する。SPD の中の同じ世帯とのインタビューは、改革前・改革の導入期・改革後のそれぞれ別の時期のベラスラインをカバーするデータを提供する。SPD からデータは、アメリカ合衆国の人々の、現在の経済状況と活動の概略を提示する。 (United States Department of Commerce, Bureau of the Census)</p>	<p>包括的な就業経験情報は、15 歳以上の人の雇用状況、職業、産業、働いた週、週に働いた時間数、フルタイムで働いていない理由、総収入、収入の内訳など。現在労働している人だけでなく労働力していない人の情報もある。 質問は、回答者の仕事に対する現在の望み、過去の仕事経験および、求職の意図などをカバー。SPD は、さらに 9 つの非現金収入出所をカバーするデータを含む：ブードスタンプ、学校ランチ・プログラム、雇用者に提供される団体健康保険、雇用者に提供される年金、個人の健康保険、Medicaid、Medicare、CHAMPUS か軍の医療保険、光熱費援助。調査世帯の各人について、基礎的な属性、社会および経済特性。年齢、性別、人種、民族、婚姻区分居住建物のユニット数のような特性についてのデータも多少ある。</p>	<p>SIPP 全国を代表するよう居住区が科学的に選ばれたパネルからの 30125 世帯をインタビューした。調査時期 1997 年 4-6 月</p>	
<p>中高年生活 1 適応</p>	<p>Second Duke Longitudinal Study (ds743) 1968-1976 年 「第 2 次デューク長期研究」 ノースカロライナ 46~71 歳 / 6 年間・4 回</p>	<p>研究参加者が老年に入るにつれて、中年期の通常の発達を理解し、個人が標準的な人生の転換に適応する過程を検討すること。 (空の巣、退職、配偶者との死別など) そして、中年期、老年期を特徴づける、「普通の」心理的、社会的、生物医学的変化を特定する。</p>	<p>1968-1970、1970-1972、1972-1974 および 1974-1976。 初期の 6 年に集められたデータは、身体的、心理的、および社会的領域に焦点が置かれた。知能、パーソナリティおよび警戒心についての心理学的データが集められた。社会的データは、心理学的測定とも関係する自記式測定器具を含む。医者によってさまざまな検査がされ、病歴も調べた。</p>	<p>502 人の白人アメリカ人、261 人の男性および 241 人の女性。46~71 歳。347 人のコア参加者は、4 波すべてに参加。ダラム郡、ノースカロライナの主要な健康保険協会の会員名簿から。中年後期のより若加者 (46-71 歳) を加えることにより、中年後期における「適応」について。クロスセクションのデザインにすることにより、第 1 回デューク追跡研究に付随するものとして開始した。</p>	
<p>女性 1 大</p>	<p>Seven College Study: Goals, Attitudes, Values, and Experiences of</p>	<p>7 大学研究は、男性と女性の、自尊心、対人的自信、自己概念を比較する。</p>	<p>人口分析と家族背景、人生のゴール、キャリアの価値、自尊心および自己像、さらに大学での経験、大学プログラムおよびサ</p>	<p>7 大学協議会加盟大学の女子学生と、ハーバード大学と Vassar 大学の男子学生。</p>	<p>1981 年 2 月に、1981-85 のクラスからの学生の任意のサンプルに届け</p>

2	学生・達成	Undergraduates at the Seven College Conference of Schools (ds618) 1981-84年 「7大学研究：7大学協議会加盟大学の学部生としての、目標、態度、価値観、経験」 大学生／1年後／3年後／3回	性格の特性がどれくらい、性別役割に関係した目標、結婚や家庭についての計画、職業と家庭での責任の組み合わせの好み、将来の人生の優先順位などとの関係があるか。	サービスに対する態度およびストレスについて。 1982年に1982-84のクラスからの学生がフォロワーシップの質問票を記入。 1983-84年フォロワーシップが1984年のクラスに行なわれた。	7大学協議会加盟大学は、女性の成功者の著しく高い数がこれらの学校の卒業生であることを示す先行研究に基づいて選ばれた。 男子学生と女子学生の目標と興味関心を比較するため、ハーバードとVassarの男子学生のサンプルが研究に含まれた。	られ2か月間で回収。 回収率は75%以上で、女性4000人男性600人。
1	若者・問題行動	Socialization of Problem Behavior in Youth (ds782) 1969-1972年1979-1981年 「青少年の問題行動の社会化」 7, 8, 9年生／6回	若者の問題行動、変化の発達過程、成長を、社会心理学的、心理社会的文脈で検討。	行動、パーソナリティ、認知される環境についてのさまざまなサブスケール。 1970年に行われた、母のイデオロギー「家族インタビュ研究」に関する研究は、「高校研究」の参加者の200人の親が対象。母親との半構造化したインタビュを通じて集められたデータは、親の考え、態度、振る舞いおよび社会化慣習の様相をカバーした。母親と父親は、個別に、パーソナリティと態度の測定質問票を記入。 若い成年期に重要な人生の問題と関連の行動についての質問票が送られた。*	7, 8, 9年生の男女。1969年から1972年まで毎年。合計589人の参加者。1951年に生まれた276人の男女の参加者の集団で構成。 最初に追跡コーホート継続「高校研究」、追跡研究である「大学研究」そして第1波の「過程インタビュ研究」、第2次フェーズでは、「ヤングアダルトフォロワーシップ研究」に、フェーズ1からの参加者のうち2つのサンプルが含まれた。	589人*1979年(V波)および1981年(VI波)に「高校研究」参加者および「大学研究」参加者をフォロワーシップとして、「ヤングアダルトフォロワーシップ研究」とした。VI波では、384人の「高校研究」参加者および184人の「大学研究」参加者がいた。
8	障害者・健康	Springfield [Massachusetts] Study of Populations with Disabilities, 1993-1997 [ICPSR 2623] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY02623.xml	マサチューセッツ・スプリングフィールドに在住の障害をもつ人への2波調査。 フォーマル、インフォーマルサービスの利用状況を知ること、ADL, IADL 援助においてニーズを把握、満たされないニーズの高い人ほど、追跡時に救急医療の利用や入院が多いかの検証、回答者の医療ケアとアクセシビリティと質の満足度の評価。	健康状態、健康サービス利用、サービスの満足度、ADL, IADL, 社会的身体的活動、社会サポート、医療保険、社会的経済的属性(収入、出生年、婚姻状況、人種、ヒスパニックか否か、宗教、教育、就業状況)。	1993-1994年、マサチューセッツ・スプリングフィールド在住の18歳以上の障害をもった人。 ベアスライン調査の対象者はRRDによって選ばれ、ネットワークサンプリング。 18-64歳と65歳以上が半々になるように年齢によって層化。 632人中592人が1996-1997年の再調査参加に	ベアスライン632, 追跡424
9	医療サービス	「マサチューセッツ・スプリングフィールド障害者調査」 マサチューセッツ州・スプリング				

3	年の発達・学業達成	「人生の転換期研究」 南東シシガン州公立学校／6 年生／5回	の考え、やる気、価値観、行動に与える影響を調査。	問票に記入。教師と親も質問票を記入。 学生：広範囲の環境上の特性、および成績に関連する動機についての指標を含んでおり、数学・英語・身体技能、社会活動そのほかについて、学生の考え、価値観、態度を幅広く調べた。さらに、教師の公平さおよび親しみについてや、学生間の競争や社会的比較、および友情、競争、学生間の社会的比較、学生間の相対的な学習の機会および教師の教学への関心について。*	中程度の収入の地域にある、12の公立学校地区から抽出された。 およそ3,248人の思春期青年； 教師(143の教室から)の95%および親の72%に参加依頼。学校地区の選択は、6年生から7年生になるときに伝統的な中学への移行を経験できる学区が選択された。	室での実際についての一般的な信念について調べる質問票を記入。 親；数学、家族の意志決定および他のトピックに関する自分の信念のことにもついてどう思っているかについての質問票を記入。よりマクロレベルの、教室における教育のプロセスについての観察も行った。	4437人 1479人がオリジナルのパネルに回答。
家計	Survey of Consumer Finances Panel Survey, 1983-1989 [ICPSR 6892] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06892.xml	消費者の家計状況についての調査。 1983, 1989年調査のデータをリンク。 (Kennickell, Arthur, the Board of Governors of the Federal Reserve System)	税金関連の記録から	アメリカの合衆国の大陸48州で、22歳以上の人。1983年調査で作成した地域確率抽出を修正し1989年に使う。1983年の回答者全員を訪問。前と同じ人であれば、そのまま調査。違う場合も調査(その場合はクロスセクションとして扱う。)1983年の回答者が離婚離別している場合は、もとの配偶者を埋め、両方に調査。不足分を埋めるために、小さな補足サンプルを追加。	州で、22歳以上の人。1983年調査で作成した地域確率抽出を修正し1989年に使う。1983年の回答者全員を訪問。前と同じ人であれば、そのまま調査。違う場合も調査(その場合はクロスセクションとして扱う。)1983年の回答者が離婚離別している場合は、もとの配偶者を埋め、両方に調査。不足分を埋めるために、小さな補足サンプルを追加。		
1			疫学的調査。ミシガンの南東部で、1957年から30年間継続(データセットには1969年までのもの)。1970年までは、新しい住民も参加。80以上の調査を実施。特定の疾病に関するもの、地域における疾病の発生率や発生数を捉えた。	既往歴、検診、医学的測定、検査、ECGなど。人口学的属性、家族既往歴、現在と過去の症状、喫煙飲酒習慣、健康診断、その他測定や検査を含む。	都市部と田舎部を合わせた平均的な中西部の地域ミシガンの Tecumseh が選ばれた。また地域のリーダーや医療関係者も調査に積極的だったこともある。 2400世帯、8800人の住民の全数調査。	1959-1960年 and 1962-1965年 and 1967-1969年の調査に1度以上参加した者11563人、3回全て参加が4312人。3歳すべて8637人。	
3							
4							

キャリア	Turkish Modernization Study, 1956-1965 [ICPSR 7077] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07077.xml	トルコの管理職のエリート層の重要な核を構成している、トルコの行政官僚と公的機関に勤務する、アンカラ大学の政治学系卒業生の調査。	1956年と1965年の調査の焦点は、卒業生が大学を離れてからのキャリア経歴、彼らの管理的な能力、仕事の中で職業上の満足感に寄与する側面について、職業人としての生活に学部生のとときの勉強がどれくらい役立っているかなど。性別と収入の属性もあり。	トルコの行政官僚と公的機関に勤務する、アンカラ大学の政治学系卒業生を対象。 1956年と1965年の2波を実施。 第1波で調査された380人のうち、241人が1965年に答えた。さらに、政治学系の最近の卒業生(69人)の新しいサンプルが加えられ、第2波の1965年は、310人が調査された。	1956年380人。 1965年241人回答+69人追加。
近代化	「トルコにおける経営者の近代化に関する研究」 1956-1965年				
トルコ	アンカラ大学卒業生/9年後				
労働組合	Union Representation Elections and the Role of the National Labor Relations Board [ICPSR 7625] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/07625.xml	委員会の考え、代表の投票に関する心をもち、投票するかは選挙前の運動によって影響されるという仮説を調べる。この前提において、組合は規則を作っている。不法な運動が、労働者の組合選挙に対する考えかたにどう影響するかを調べる。*	運動前の投票予定、運動後実際にどう投票したかを知る。 1波は、組合代表についての感じ方。労働条件、組合についての意識。明日投票だったらどうするか。 2波は、運動の内容の記憶、なぜのよくなる理由でどう投票したか、会社や組合からのプレッシャーなどを観察したか。職業経験、年齢、性別、人種、教育レベル、政治志向、婚姻状況、契約、週労働時間、時給、組合に入っていたか、前回投票したか、配偶者、両親が組合員だったかかなど。	アメリカ、1972-73年組合選挙に参加した労働者。 31の選挙を調査、組合側勝利が8。*調査とその目的は、次に詳しい。Getman, Julius G., Stephen B. Goldberg, and Jeanne B. Herman. UNION REPRESENTATION ELECTIONS: LAW AND REALITY. New York: Russell Sage Foundation, 1976	1300人に接触し、1239人が2回の調査に参加。
若者	Wisconsin Longitudinal Study, 1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, and 1993-1994 [ICPSR 6163] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06163.xml	ウィスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	初回からの参加者とその親について、1957-1975の社会的背景、若い時と成人してからからの期待や目標、教育、軍隊サービス、労働市場での経験、家族形成、労働市場経験、社会参加。 1992-93の調査では、職歴、収入、資産、金銭の移行、親、きょうだい、子どもの社会的経済的状況、精神的身体的健康状態。1977と1993-94年には、きょうだいの調査も行われた。	サンプルは、最低限高校を卒業した非ヒスパニック系のアメリカ男女を大まかに代表しているといえる。 1990-91年に50-54歳だったアメリカ人の66%は非ヒスパニック系で12年以上教育を受けている。しかし、代表していない層も多くある。ドイツ系、イギリス系、アイリッシュ系、北欧系、ポー	きょうだいは、サンプルに限り年齢のコホートに限られる。 1930-1948年生まれ。 1964, 1975, 1992年の調査では、2/3がウィスコンシンに住み、その他は他州や海外在住。始めに調査したうち9000人がその後追跡にも参加し、1992-93
生活	Wisconsin Longitudinal Study, 1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, and 1993-1994 [ICPSR 6163] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06163.xml	ウィスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	初回からの参加者とその親について、1957-1975の社会的背景、若い時と成人してからからの期待や目標、教育、軍隊サービス、労働市場での経験、家族形成、労働市場経験、社会参加。 1992-93の調査では、職歴、収入、資産、金銭の移行、親、きょうだい、子どもの社会的経済的状況、精神的身体的健康状態。1977と1993-94年には、きょうだいの調査も行われた。	サンプルは、最低限高校を卒業した非ヒスパニック系のアメリカ男女を大まかに代表しているといえる。 1990-91年に50-54歳だったアメリカ人の66%は非ヒスパニック系で12年以上教育を受けている。しかし、代表していない層も多くある。ドイツ系、イギリス系、アイリッシュ系、北欧系、ポー	きょうだいは、サンプルに限り年齢のコホートに限られる。 1930-1948年生まれ。 1964, 1975, 1992年の調査では、2/3がウィスコンシンに住み、その他は他州や海外在住。始めに調査したうち9000人がその後追跡にも参加し、1992-93
家族形成	Wisconsin Longitudinal Study, 1957, 1964, 1975, 1977, 1992-1993, and 1993-1994 [ICPSR 6163] http://webapp.icpsr.umich.edu/cocoon/ICPSR-STUDY/06163.xml	ウィスコンシンンの高等学校を1957年に卒業した10000人の男女の社会的、経済的ライフコースについての35年にわたる調査。25, 26, 53-54歳で、追跡調査。	初回からの参加者とその親について、1957-1975の社会的背景、若い時と成人してからからの期待や目標、教育、軍隊サービス、労働市場での経験、家族形成、労働市場経験、社会参加。 1992-93の調査では、職歴、収入、資産、金銭の移行、親、きょうだい、子どもの社会的経済的状況、精神的身体的健康状態。1977と1993-94年には、きょうだいの調査も行われた。	サンプルは、最低限高校を卒業した非ヒスパニック系のアメリカ男女を大まかに代表しているといえる。 1990-91年に50-54歳だったアメリカ人の66%は非ヒスパニック系で12年以上教育を受けている。しかし、代表していない層も多くある。ドイツ系、イギリス系、アイリッシュ系、北欧系、ポー	きょうだいは、サンプルに限り年齢のコホートに限られる。 1930-1948年生まれ。 1964, 1975, 1992年の調査では、2/3がウィスコンシンに住み、その他は他州や海外在住。始めに調査したうち9000人がその後追跡にも参加し、1992-93